

平成 26 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

21 世紀の国際社会をリードする新しい時代のリーダーを育てる学校めざす。
1 知・徳・体の調和のとれた人間を育成するとともに、社会に貢献する志を持った、グローバルなリーダーを育てる。
2 夢や志を実現できる確かな学力を身につけさせ、生徒の進路希望の実現を図る。
3 豊かな心や三丘スピリット（文武両道、自主自立、切磋琢磨）を育む。また、要配慮生徒への支援や人権尊重の精神を涵養し、安全・安心な学校をつくる。
4 教職員の資質の向上と機動的な学校運営体制を確立させ、府立高校の評価・信頼向上のリーダー校をめざす。

2 中期的目標

【1】 生徒の夢や志を育み、国際感覚を育成する （1）進学指導特色校にふさわしい「志学」や「キャリア教育」を推進する ア 進路意識の醸成を図る 「総合的学習の時間」・LHRなどで社会の第一線で活躍する人材を有する同窓会等と連携し、卒業生の人材を活用して大学や社会での最先端の学問や研究、仕事の最前線に触れさせる。 ※ 「三丘セミナー」「三丘カレッジ」等の充実を図り、毎年 20 講座以上提供する。 ※ 「SS探究・SS研究」「CS探究・CS研究」の充実による志の形成サポートや大学のオープンキャンパスなどを活用し、学部選びや将来の志望育成を図る。 ※ 「東京方面キャンパスツアー」を毎年実施し、研究室訪問などを行うことにより、高い目標を醸成し、その満足度を 90％以上とする。 ※ 本校にふさわしい 3 年間を見通した進路・キャリア教育のプログラムを平成 26 年度には完成させる。 イ 高い志を育成する 三丘セミナー、大学訪問、医療系職場体験などの具体的なプログラムを提供するとともに、難関大学の見学会や医療体験事業を通じて社会に貢献できる高い志や目標意識を育む。 ※ リーダーとして高い志を育成するための進路講演会・懇談会を充実させ、生徒の満足度を 90％以上とする。 ※ 京大・阪大・神大などの難関大学の研究室訪問や見学会を年 5 回以上実施するとともに、その内容の改善・充実を図り、満足度 90 パーセント以上を維持する。 ※ 医療現場と連携して医師・看護師などの医療系職場体験の充実によって、医療系進学者の増加を図る。（H23 年度は 27 名、H24 は 24 名、H25 は 32 名） （2）国際感覚とグローバルリーダーの育成を図る ア グローバルリーダーの育成 スーパーグローバル・ハイスクール（SGH）、進学指導特色校にふさわしい確かな学力を育てるため、「Creative SolutionsⅠⅡⅢ」・「CS探究」を充実させ、確かな英語の学力をつけるとともに、グローバルリーダーをめざした目的意識を醸成する。 ※ SGHカリキュラムによる、「メルルハースト大学」の派遣教員の授業、「国際機関の現状と使命」や「世界の最新の知見」を学ぶことにより、生徒の学習意識を高め、グローバルリーダーとしての素養とリーダーシップを学ぶ。上記授業の満足度を 90％以上とする。 ※ 英語教育の充実を図り、「海外進学講座」を充実させるとともに TOEFL ITP、TOEFL junior の受験者の 2 0 0 名以上を維持する（H25 204 名）また同時に H27 年度より導入する「SETを活用した英語コース」の準備・充実を図る。 ※ 海外進学 1 名以上をめざす。 ※ 学校教育自己診断（生徒）「コミュニケーションに必要な英語を学ぶ機会がある」肯定的評価 65％以上をめざす。（H25 69.9％） イ 国際感覚の育成を図る オーストラリア・スタディツアー、SGH関連のアメリカ・スタディツアー、フィリピン・スタディツアー、またスポーツ・カルチャーツアー（台湾を予定）を企画、実施し全てのツアーで満足度 90％以上をめざす。 オーストラリアの友好校「カンタベリー・カレッジ」を始めとし、海外よりの短期留学生 20 名以上をめざす。また、国際交流センターを活用し、中国・韓国との交流にも努める。 ※ 学校教育自己診断（生徒・保護者）「国際交流に関する取り組みが充実している」の肯定的評価 80％をめざす。（H25 生徒 82.7％ 保護者 81.1％） 【2】 確かな学力の向上と進路希望の実現を図る （3）質の高い授業による確かな学力向上 ア 質の高い授業の提供 スーパーグローバル・ハイスクール、スーパーサイエンス・ハイスクール、進学指導特色校としてふさわしい確かな学力を育てるため、SGH関連科目、理数系スーパーサイエンス科目の充実や文理学科・普通科に適した教科・科目の教材開発、授業方法の研究を進める。 ※ スーパーグローバル、スーパーサイエンス校として毎年 4 回以上の授業公開を行うとともに、保護者への授業公開も 3 回以上行う。 生徒の自学自習（学校外での学習時間）を 2 時間以上確保する指導を充実する。 ※ H26 年には、1・2 年生で 1 日 2 時間以上の自学自習をめざす。 授業アンケートや研究授業を活用して授業力向上を図り、生徒の授業満足度を向上させる。 ※ 生徒の授業評価における授業満足度の向上を図り、つねに 80％以上を維持する。（H25 に 86％）また、H26 年には学校教育自己診断における保護者の授業満足度 65％をめざす。（保護者 H25 年度は 57％） イ 学力向上の取組み 1 年生及び 2 年生で勉強合宿を実施して、学力向上と学習意欲の向上を図る。 ※ 参加生徒の満足度 90％以上を維持するとともに、つねにプログラムの工夫・改善を行う。 SSHの経過措置 1 年の取組みを充実させ、イノベーション人材の育成に貢献する。 ※ 課題研究や発表大会を充実させ、参加生徒の満足度 80％以上を維持する。 本校生徒に最も適した教育課程を検討し確定する。 基礎的、基本的な学力を高めるために読書量、読書時間の確保を図る。 （4）進路希望の実現 難関国公立大学等（東大、京大、阪大、神大、市大、医学部医学科）への進学者の増加を図る。 ※ 現役の難関国公立大学進学者数を毎年増加させる。 ※ 学校教育自己診断において、本校の進学指導に対する保護者の満足度を H26 年度には 80％以上を維持する。（H25 年度 80.8％） 1、2 年生の成績不振者には計画的な「成績不振者講習」を行い、学力の回復と意欲向上を図る一方、発展的専門的な学習「進学講習」を行い、学力を養成する。 進路講演会、勉強合宿などを利用して卒業生チューターとの学習・進路相談を充実させ、生徒の進路意識の醸成を図る。 ※ 卒業生チューターとの懇談を年間 5 回程度実施する。 生徒自らが適切な進路選択ができるとともに、難関大学への志望力を高めるために進路指導体制の強化を促進する。 ※ 進路ホームルームの充実と 3 年間を見通したプログラムの H26 年度の完成に努める。

【3】 基本的な生活習慣の確立と自主自立・人権尊重の精神の涵養

（5）生活習慣の確立と三丘スピリット育成

規範ある集団生活を確立し、遅刻指導の徹底と授業集中力を高める。

- ※ 1日1クラス当たりの遅刻人数を0.5人未満の維持をめざす。
部活動や学校行事を通じて「三丘スピリット」を育み、「集中と切替え」ができる生活態度を育てる。
各種の行事や部活動を通じて豊かな人間性とリーダーに必要な資質を養う。また顕著な成績をおさめた生徒は積極的に顕彰する。
- ※ 1、2年生の部活動加入率95%以上の維持をめざす。
悩みや不安を抱えた生徒に対応するため教育相談やカウンセリングの機能を高める。

（6）人権尊重の教育推進

- 情報リテラシーの育成などの今日的課題をふまえつつ、リーダーにふさわしい豊かな人間性や資質を涵養するため、日常の教科教育のみならず、あらゆる場面で教職員が、人権教育に協力して取り組んでいく。
- ※ 毎年、学年ごとに1回以上の人権講演会を行い、人権意識を涵養する。
 - ※ 学校教育自己診断（生徒）の「人権・環境・福祉などの今日的課題について学習する機会がある」に対する肯定的意見を60%以上をめざす。（H25年度 46.8%）
そのため、人権教育推進委員会と学年、分掌が連携して、恒常的な情報交換を行う。

【4】 機動的な学校の運営体制の確立と教職員の資質向上

（7）機動的学校運営

- 機動的な学校運営のため、学校経営計画の学校の目標や取組みを共有・実行し、常に教職員が課題や改善点を意識し、次年度につなげる。
- ※ 教職員個々の評価・育成システムでは学校経営計画の項目に関連した目標を設定し、取り組む。また、年度末の自己評価で明らかになった課題や改善点は次年度の目標に反映させる。
 - ※ 学校教育自己診断や学校運営に関する校長への提言シートを活用し、業務の見直しに不断の努力を行う。
ICTが活用できる環境作りと機動的な情報伝達と共有を図り、全員がICTを使って業務の省力化を図る。
 - ※ ICT統合及び校務処理システムの円滑な実施をめざす。

（8）安全・安心で開かれた学校

- 安全で安心できる学校をつくるため緊急事態発生時の対応や教職員の研修など危機管理体制を確立する。
- ※ 各学期1回以上の研修を実施する。
生徒相談室の機能の充実を図るとともに、特に課題を抱えた生徒について、学年団での情報交換や連携指導を深める。
 - ※ 各学期1回以上のケース会議の開催と、随時の学年団での情報交換会を開催する。
開かれた学校として、保護者や地域との連携を図るとともに、教育活動や学校運営についてWebページを通じ公表していく。
 - ※ Webページは随時更新し、行事等は10日以内の情報提供をめざす。
 - ※ 学校教育自己診断（保護者）の、「学校は、保護者から意見をきく機会を多く持っている」に対する否定的意見が10%以下をめざす。（H25年度 否定的意見 21.1%）
そのため、保護者集会を各学年で実施し、内容を充実させる。
文化祭や登録文化財「三丘会館」、芸術祭、各種講演会などを広く府民に積極的に公開する。
 - ※ 地域住民、府民など公開する行事を年間3日以上設定する。

（9）教職員の資質向上

- 新着任教員対象にアンケートを行い、新しい職場への早期適応と研修の充実による教職員の資質向上を図る。
- ※ 各学期1回以上の研修を実施する。
授業力向上をめざし、校内研究授業を学期ごとに開催するとともに、教育産業等が主催する研修や他校の受講を支援する。
 - ※ 教育産業や他校の研修に年間50人以上の参加を促進する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔平成 年 月実施分〕	学校協議会からの意見
	第1回（ 月 日）
	第2回（ 月 日）
	第3回（ 月 日）

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 生徒の夢や志を育み、 国際感覚を育成する取組みの推進	(1)進学指導特色校にふさわしい「志学」や「キャリア教育」を推進 ア 進路意識の醸成を図る イ 高い志を育成する	・「三丘セミナー」「三丘カレッジ」等の充実を図る。 ・「SS探究・SS研究」「CS探究・CS研究」を充実させ、大学のオープンキャンパスなどを活用し、志の形成を図る。 ・科学の最前線にふれる機会を提供し、科学教育の充実を図り、理系進学者の増加を図るために、また高い進路意識を醸成するために「東京方面キャンパスツアー」を実施する。 ・本校にふさわしい3年間を見通した進路・キャリア教育のプログラムを完成させる。 ・リーダーとしての高い志を育成するために進路講演会・懇談会などの取組を充実させる。 ・京大・阪大・神大などの難関大学の研究室訪問や見学会を実施する。 ・医師・看護師などの医療系職場体験を実施し、医療系進学者の増加を図る。	・20 講座以上提供する 参加生徒の満足度 85%以上 ・課題研究選択生徒の満足度 85%以上 ・キャンパスツアー参加生徒の満足度 85%以上 ・3 年計画の最終年にあたるプログラムの充実と完成 ・実施回数年 8 回以上 ・実施回数年 8 回以上 ・学校教育自己診断（生徒）「適切な進路指導」肯定的評価 80%以上 (H25 年度 83.8%) ・参加生徒の満足度 85%以上 ・医療系進学者の 5%増加	
	(2)英語によるコミュニケーション能力の育成を図る ア グローバルリーダーの育成 イ 国際感覚の育成を図る	・文系の探究的学習「Creative Solutions I II III」・「CS探究」の充実を図る。 ・「メルルハースト大学」の派遣教員の授業を学ぶことにより、生徒の学習意識を高め、グローバルリーダーとしての素養とリーダーシップを学ぶ。 ・英語教育の充実を図り、「海外進学講座」を充実させるとともに TOEFL ITP、TOEFL junior の受験者の増加をめざす。 ・オーストラリア・スタディツアー、アメリカ・スタディツアー実施しグローバルリーダーとしての意識の向上を図る。 ・オーストラリアの友好校「カンタベリー・カレッジ」を始めとし、海外よりの短期留学生の受け入れを積極的に行う。	・満足度を 90%以上とする。 ・海外進学 1 名以上をめざす。 ・200 名以上を維持する (H25 204 名) ・学校教育自己診断「コミュニケーション英語を学ぶ機会」肯定的評価 65%以上を維持 (H25 年度 69.9%) ・参加生徒の満足度 90%を維持 ・20 名以上をめざす ・学校教育自己診断（生徒・保護者）「国際交流に関する取り組みが充実している」の肯定的評価 80%をめざす。(H25 生徒 82.7% 保護者 81.1%)	

2	確かな学力の向上と進路希望の実現	（3）質の高い授業による確かな学力向上 質の高い授業の提供 イ 学力向上の取り組み （4）進路希望の実現	・SGH関連科目、理数系スーパーサイエンス科目の充実や文理学科・普通科に適した教科・科目の教材開発、授業方法の研究を進める。 ・生徒の自学自習（家庭等での学習）時間を2時間以上確保させる。 ・授業アンケートや研究授業を活用して授業力向上を図る。 ・1年生及び2年生で勉強合宿を実施して、学力向上と学習意欲の向上を図る。 ・SSH 課題研究をイノベーション人材育成の観点から一層充実させ、その成果を、英語を交えて発表する。 ・平成 27 年度より導入する「SETを活用した英語コース」に向けて、本校生に適した教育課程を検討する。 ・基礎的、基本的な学力を高めるために読書量、読書時間の確保を図る。 ・難関国公立大学等（東大、京大、阪大、神大、市大、医学部医学科等）への合格者の増加を図る。 ・1、2年生の成績不振者には計画的な「成績不振者講習」を行い、学力の回復と意欲向上を図る一方、発展的専門的な学習「進学講習」を行い、学力を養成する。 ・三丘エクセレンスなどを利用して卒業生チューターとの学習・進路相談を充実させ、生徒の進路意識の醸成を図る。 ・生徒自らが適切な進路選択できるとともに、難関大学への志望力を高めるために進路指導体制の強化を促進する。	・SGH、SSH校として授業公開年4回以上 - 保護者への授業公開3回以上 ・1、2年生で1日2時間以上の自学自習する生徒の割合45%以上を維持（H25 年度 46%） ・生徒の授業満足度85%以上を維持（H25 年度 86%） ・参加生徒の満足度85%以上を維持（H25 年度 100%） ・生徒の参加数100名以上維持 ・参加生徒の満足度85%以上維持（H25 年度 100%） ・教育課程の充実 ・冊子「月下氷人（推薦図書）」を活用するなどして、読書指導を充実 ・現役の国公立大学合格者数を毎年増加させる（H25 年度 167 名） ・補充講習（放課後を利用した指名講習）の充実 ・三丘スタディハード（進学講習）の充実 ・卒業生チューターとの懇談・相談会の年間5回以上の実施を維持（H25 9 回） ・「進路育成プログラム」の完成	
3	自主自立・人権尊重の精神の涵養	（5）生活習慣の確立と三丘スピリット育成 （6）人権尊重の教育推進	・規範ある集団生活を確立し、遅刻指導の徹底と授業集中力を高める。 ・部活動や学校行事を通じて「三丘スピリット」を育み、「集中と切替え」ができる生活態度を育成する。 ・各種の行事や部活動を通じて豊かな人間性とリーダーに必要な資質を養う。 ・人間関係の構築などの今日的課題をふまえつつ、リーダーにふさわしい豊かな人間性や資質を涵養する。 ・人権教育推進委員会と学年や分掌が連携し、恒常的な情報交換を行う。	・1日1クラス当たりの遅刻人数0.5人未満（H25 年度 0.63 人） ・1、2年生の部活動加入率95%以上を維持（H25 年度 95%） ・リーダー研修を年1回以上実施（H25 年度 2 回実施） ・各学年、年1回以上の講演会実施 ・学校教育自己診断（生徒）「人権・環境・福祉に関して学ぶ機会」に関する否定的評価35%以下に（H25 年度 47%）	

4 機動的な学校運営体制の確立と教職員の資質向上	(7) 機動的学校運営 (8) 安全・安心で開かれた学校 (9) 教職員の資質向上	・機動的な学校運営のため、学校経営計画の学校の目標や取り組みを共有し、実行し、常に教職員が課題や改善点を意識し、次年度につなげる。評価・育成システムとより一層関連を深める。 ・H26 年度は校内イントラを一層積極的に活用し、情報の共有を進める。全員が I C T を使って業務の省力化を図る。 ・安全で安心できる学校をつくるため緊急事態発生時の対応や教職員の研修など危機管理体制を確立する。 ・生徒相談室の機能の充実を図るとともに、特に問題を抱えた生徒について、学年団での情報交換や連携指導を図る。 ・開かれた学校として、保護者や地域との連携を図るとともに、教育活動や学校運営について W e b ページを通じて公表していく。 ・文化祭や登録文化財「三丘会館」、芸術祭、各種講演会などを広く府民に積極的に公開する。 ・新着任教員が新しい職場に早期に適応できるように研修を実施し、教職員の資質向上を図る。 ・学力向上のため授業力向上をめざし、校内研究授業を開催するとともに教育産業等の授業研修受講を支援する。	・学校教育自己診断や提言シートなどを活用して、改善を図る ・利用についての研修を 1 回以上実施 ・各学期 1 回以上の研修を実施 ・「こころのアンケート」の継続実施 ・「支援カード」の円滑導入 ・随時、ケース会議を開催 ・随時、学年団での情報交換会を開催 ・各学年の保護者連絡会等を随時実施 ・W e b ページは随時更新し、行事等は 10 日以内の情報提供を行う ・地域住民、府民など公開する行事を年間 3 日以上設定する。 ・年間 6 回程度の研修を実施 ・校内研究授業各学期 1 回実施 ・教育産業等の授業研修や他校の研修に年間 50 人以上を維持（H25 年度 82 名）	
-----------------------------	--	---	--	--